



【「地域アプローチ」による少子化対策の推進に向けて】オンラインシンポジウム  
土佐町企画推進課 SDGs推進室（発表者：尾崎）





# 土佐町の概況



奥

今治

新居浜

四国中央

香川県

徳島

阿南

徳島県

松山

西条

四国

愛媛県

56

高知

香南

八幡浜

大洲

高知県

西予

須崎

宇和島

室戸

四万十

宿毛

土佐清水









## 立地


- 町面積：212.13km<sup>3</sup>
- 高知市の北、四国の中央部に位置する山間の町
- 四国の水瓶「早明浦ダム」がある水源地

## 人口等

- 人口：約3,750人（2021国勢調査）→2040年推計：約2,329人
- 高齢化率：約47%
- 合計特殊出生率：1.61（2013-2017）
- 有配偶率：54%、有配偶出生率：102.9（2015）



## 産業

- 基幹産業は第1次産業：
    - 棚田（稲作・酒米）
    - 土佐あか牛の国内最大生産地
    - 林業（森林率86%、うち人工林率82%）
  - 産業別付加価値額では「医療・福祉」が4割占める
  - SDGs未来都市（2020年度～）  
「SDGsと住民幸福度に基づく“誰ひとり取り残されない”持続可能なまちづくり」
- 



# これまでの少子化対策の状況



# 土佐町第2期子ども・子育て支援事業計画



**基本理念** みんなで「子育て」「育ち」を支え、子どもが輝くまちづくり

## 基本目標

1 安心して産み育てることのできるまちづくり

## 施策

- (1) 妊娠・出産・育児の切れ目ない支援
- (2) すべての子育て家庭への支援
- (3) 仕事と子育ての両立支援
- (4) 子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり
- (5) 子どもの尊厳と安全の確保
- (6) 支援を必要とする子どもと子育て家庭への取り組みの推進
- (7) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の充実（子ども・子育て支援事業計画）

2 地域のみんなどで子育てを支え合うまちづくり

- (1) 地域の子育ての場とネットワークづくり
- (2) 子どもの居場所づくりの推進

3 「自ら学び考え、行動する力」を育むまちづくり

- (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもの育成
- (2) 保小中高連携教育の推進
- (3) 思春期保健対策の充実

## ① 出産祝金

第1子・第2子 10万円  
第3子以降 20万円

## ② 保育料無償化

平成31年4月から第1子含め無償化

## ③ 給食費無償化

学校給食（保小中）  
平成31年4月から

## ④ 高校生まで医療費無償化

## ① 高等学校魅力化事業

② 小中学校での総合学習、学校応援団

③ 保育園での多様性教育







## 実施した調査及び検討、成果

# 実施した内容



## モデル事業を通じて達成したい目標

	2021年度	2022年度	2023年度～(将来)
達成したいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の少子化の状況をモニタリングするのに適した指標の明確化及び目標値の設定</li> <li>少子化対策を推進する部署の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の目標値を達成していく上で有効な施策を明らかにするとともに、試行的にいくつかの事業を実施し、重点施策を具体化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点施策の実施</li> <li>TFR2.1以上の実現</li> <li>多子世帯の増加</li> </ul>

## モデル事業の実施概要

	実践①	ワーク①合同	実践②	ワーク②府県別
時期	6月	8月	8-9月	10月
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>国勢調査等をベースにした定量的データの把握(TFRの内訳、未婚率、人口動態等)</li> <li>データを踏まえた仮説設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説についての有識者を交えた検討</li> <li>現状の要因分析及び課題等の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年の出産状況の把握(TFRに占める第3子以降出生の割合が高い理由の分析)、移住者等の出生動向の分析</li> <li>仮説設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説についての意見交換</li> <li>ネクストアクションの設定</li> </ul>
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>他地域と比較した町の出生傾向等の把握、強み・弱み分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定した仮説についての検証</li> <li>今後の検証の方向性の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の近年の出生状況の変化の把握</li> <li>TFRの偏り要因の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TFR偏り要因の特定</li> <li>ネクストアクションの設定</li> </ul>
	実践③	ワーク③府県別	実践④	ワーク④合同
時期	10-11月	12月	12-1月	2月
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代の住民に対するヒアリング</li> <li>出生数全体に占める多子世帯の割合の分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左実践報告</li> <li>町の検討の方向性や、それを実施していく上で体制面の課題について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代の住民に対するヒアリング</li> <li>ヒアリング結果等を踏まえた町の少子化対策の方向性や、その進捗を把握するための指標等の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の検討結果の報告</li> <li>次年度以降の取り組み体制や実施内容についての報告</li> </ul>
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民目線で見た定性的な町の子育て環境の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリング等の方向性の明確化</li> <li>今後の進め方の確認</li> </ul>		



# 実施した内容



## 1. 「地域アプローチ」での分析

統計等を通じた土佐町の状況の把握

鳥の目

## 2. 町全域データに対する個別性に着目した精査

町全体の状況を踏まえつつ、地域特性や世帯状況による際を分析

## 3. ヒアリングを通じた検討

個人単位での少子化対策に係る状況の把握

虫の目

魚の目

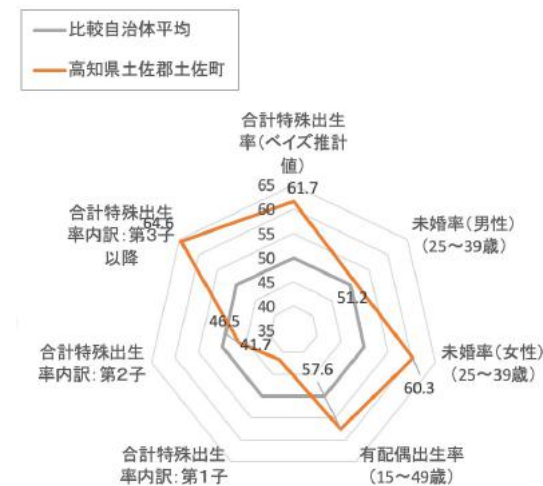
# 「地域アプローチ」での分析



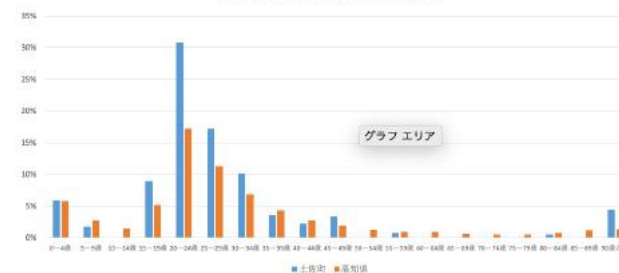
- 全体として、他地域との比較の上では必ずしも少子化状況として悪い状況ではない。
- 合計特殊出生率として、第3子以降の割合が高知県平均に対して大きく偏ることが特徴的
- 高等教育機関や就職先が少ない中山間地域の特性で、男女とも10代中盤からの転出率が高い。一方で、転入率についても男女とも、高知県平均より高く、特に30代後半から40代前半の子育て世代において、その傾向がある。



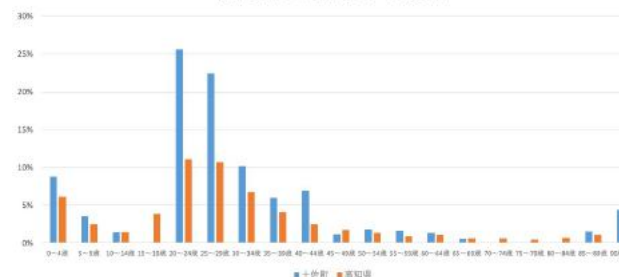
- 第3子以降内訳が高い理由として、下記2点の可能性を想定
  - ①子だくさんの家庭が多い
  - ②第2子まで他地域で出生し、その後UIターンしている家庭が多い
 ※感覚知として、それらの発生に地域差？
- 双方について、地元：移住者の割合や、町内の地域特性を踏まえて分析する



(1) 女性の年齢別転出率 (2015年)



(2) 女性の年齢別転入率 (2015年)





# 町全域データに対する個別性に着目した精査



- 出生に占める移住者世帯の割合は、人口に占める移住者の割合に対し高め。また全体の出生数に影響
- 第4子以上の子たくさん家庭が一定数存在。また、同じような規模の人口圏（旧小学校区）や地区単位でも、子どもの割合には大きな違い。
- 一方で全体の出生数は横ばい状態であり、上記の子たくさん家庭の影響で、全体の出生数が維持されている可能性がある。



- 出生自体に、経済（仕事、収入）、環境（居住地の立地や自然環境等）、社会（地域特性、家庭の状況）が一定関連すること自体は間違いない。
- 一方で、それらについての個人個人の受け止め方は千差万別であり、安易な関連づけはすべきでないのではないか？
- より個人個人の視点で出生や子育てにポジティブに寄与している要因を把握していくことが必要

	合計	地元	移住者	第1子	第2子	第3子以降
2021年9月	3	2	1	1	1	1
2021年7月	2	1	1	1	1	
2021年4月	0					
2021年2月	6	5	1	2	2	2
計・割合	11	73%	27%	36%	36%	27%
2020年12月	6	5	1		2	4
2020年9月	2	2			1	1
2020年7月	3	3		1	1	1
2020年4月	2	1	1		1	1
2020年2月	3	3			3	
計・割合	16	88%	13%	6%	50%	44%
2019年12月	9	7	2	5	3	1
2019年9月	4	4		1	1	2
2019年7月	3	2	1	3		
2019年4月	3	1	2	1	1	1
2019年2月	3	2	1	2	1	
計・割合	22	73%	27%	55%	32%	18%
合計	49	38	11	17	18	14
%		78%	22%	35%	37%	29%

旧小学校区	人口	男性	女性	20歳以下人口割合	20歳以下人口/55歳以下女性
瀬戸・南川	69	39	30	6%	2.00
石原	301	155	146	7%	0.76
地藏寺	224	105	119	13%	0.97
相川	403	196	207	16%	1.08
平石	77	43	34	10%	0.80
森	853	403	450	10%	0.72
和田	64	35	29	2%	0.20
松ヶ丘	240	136	104	10%	0.92
田井	1394	662	732	16%	1.03
大河内	28	11	17	21%	1.50

# ヒアリングを通じた検討



■ 個人個人を取り巻く状況と、出生や子育ての状況、子育て環境に対するニーズを把握することで、「誰ひとり取り残されない」少子化対策のあり方を検討する。

■ 20代～50代の男女を対象にヒアリング実施  
→下記の3軸で分類、一定の傾向値を把握

- ① 独身／夫婦子ども無／夫婦子ども有
- ② 町出身者（生涯町在住／Uターン）／町外出身（移住）
- ③ 町在住／町外在住（将来的なUターン希望）

土佐町の少子化状況は現時点において、必ずしも悪くはない（むしろ良好）

一方で、今後もそれを持続可能にしていく観点で状況を見ると、様々な懸念事項が生じている

現時点では、それらはマクロな傾向ではなく、個人レベルや小地域単位での違いとして発生。

このため、町の状況を把握する上でも、よりひとりひとりの特性を踏まえながら分析をしていくことが必要。ごく小規模な自治体だからこそ、そうしたことができる。

## 独身／夫婦子無／夫婦子有

### 【共通項】

- ・ いずれの分類においても、地域コミュニティのサポート（関係性の密さ）に対する期待及び高感性が高い

### 【違い】

- ・ 子有属性になるほど、生活環境に対する意見が、肯定的／否定的いずれにおいても具体的にでてくる。

例) 顔の見える人間関係  
自然環境・水  
経済的支援  
病院等の遠さ  
選択肢の少なさ・  
多様性

## 町出身／移住

### 【共通項】

- ・ いずれの分類においても、第1子出生の際の不安感や第2子以降出生時における家族等のサポートに対する期待は高い。
- ・ いずれにおいても病児病後時保育等、仕事との両立ニーズがある

### 【違い】

- ・ 家の確保の苦勞、近居の親類等のサポート
- ・ 移住者層ほど、出生サポートに対する具体性が高い。

例) ドウーラ、  
森のようちえん、  
ママカフェ・  
プレママカフェ

## 町在住／町外在住

### 【共通項】

- ・ いずれにおいても、親類等、出産時や乳児期におけるサポートは何らかのかたちで得ている

### 【違い】

- ・ 町外在住者について、より住む場所や仕事についての不安感が強い。
- ・ 町外在住者ほど、土佐町での子育てのイメージが抽象的





# 今後の展望

# 今後の展望

---



## ■ 施策とコミュニティ

- ・ 制度や施策で「面」でカバーしていく部分と、地域特性等を踏まえて、よりコミュニティや共助の振興を軸に進めていく部分の明確化が必要
  - 前者としては、住宅環境や仕事面の充実
  - 後者として、メンタルケアや子育てサポート等は、地域特性や個人の経済・社会状況によっても、対策に違いが生じる

## ■ 指標の設定

- ・ 住宅確保件数等のアウトプット指標は、ある程度想定可能
- ・ 一方で、子育てに対する安心感等をどのように把握していくかについては、今後より検討を進めていくことが必要。